靴のご使用にあたって知っていただきたいこと

靴は足と一体になって身体を支え、
皆様の毎日の歩行をサポートします。
より快適・安全にお履きいただくため、
ご使用の前に必ずお読みになり、正しくお使いください。
また、お読みになった後も大切に保管してください。

特定非営利活動法人 日本靴工業会

大切なお客様へ

この度は、弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
弊社の製品は、素材を厳選し、細心の注意を払い製造しております。
お取り扱いにつきましては、以下のご注意をお読みいただき、
末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

靴は目的に合わせてご使用ください

一般歩行用の靴は、道路・建物・乗り物の中で安全で快適な歩行ができるように、デザイン・設計・製造されています。雨や雪の日、スポーツなどにはその目的に合った靴をお選びください。

履き心地のよい靴をお選びください

靴を選ぶ時には「ご自分のサイズ・足の特徴」をご確認の上、お履きになってみて、無理のない履き心地の良い靴をお求めください。足に合わない靴をお履きになると転倒や健康を損なう原因となります。ご旅行などには履きなれた靴をおすすめします。

必ず試し履きをしてください

靴の表示サイズは、同じサイズでも、モデルが違ったり、デザインや素材などの違いによりフィット感が微妙に異なります。表示されているサイズは目安としていただき、必ず試し履きを行ってください。なお、試し履きに際しては、以下の点にご留意ください。

❶足は左右同じ大きさではありません

足の大きさはスポーツや生活習慣による動作・姿勢などによって、左右差が生じることがあります。市販の靴は左右同じサイズなので、その場合は大きい方の足に合わせて選ぶことをおすすめします。

❷紐はきちんと結びましょう

紐靴の場合、紐をすべての ハト目穴に通し、かかとをシューズに合わせ、しっかりと結んでください。なお、紐が余りすぎると、踏みつけて転倒の恐れがあります。

❸ちょっと歩いてみましょう

試し履きの時は、実際に使用するソックスを着用の上で必ず両足とも履き、歩いてみましょう。

①なるべく硬い床の上で歩く。
②つま先やかかとに重心を移して、違和感や異常に締め付けられる箇所はないか。
③ジグザグ歩きや後退など、不自然な動きをし、不安定な感じはしないか。
足の裏、土踏まずやかかとが圧迫されないか。

❹靴を買う時は、最も活動する時間帯に

足の大きさは、1日のうちで微妙に変化します。足に合った靴は、その人の最も活動する時間帯に合わせて選ぶのが良いでしょう。
※通信販売などをご利用のお客様は上記内容を踏まえ、サイズ選びには十分にご注意ください。

シューズ選びのポイント

❶まず、自然に履いてみましょう。

自然に立った状態で、つま先に適度なゆとりがあることを確認してください。つま先がきついと、長時間の歩行では痛くて歩けません。

❷かかとがフィットしていますか?

靴のかかと部が安定した感触を得られているかどうか。靴のかかとカーブがゆるいと、かかとが脱げやすくなり、きつ過ぎるとアキレス腱を圧迫し、靴ずれの原因となります。適度な締め付け感のあるものが良いでしょう。

❸履き口は合っていますか?

口周り(トップライン)がくるぶしにあたらず、ぴったりとフィットしていることが大切です。口周りがゆるく、指が入るようなものや食い込むほどきついものは避けるべきです。

❹つま先、土踏まず、踏み付け部・甲まわりは合っていますか?

つま先は歩いてみて、靴の先端や上部につま先があたっていないこと。つま先部にはある程度の余裕が必要です。土踏まずは特に女性のパンプスなど、土踏まずのラインが靴のラインと合っていることが重要です。踏み付け部・甲まわりは、ゆるくなく、きつ過ぎないこと。適度にフィットしている方が、足と靴との一体感を生み、安全にもつながります。

❺足を測ってもらいましょう。

足を計測してくれる店もあります。自分のサイズを知ることで、正しい靴選びの参考になります。積極的に利用しましょう。

個々の製品のバラつきは、ご容赦ください

素材を厳選し十分な検品体制のもと製造しておりますが、使用している素材によっては、表面の質感・染色・シワなどにバラつきが生じる場合があります。さらに、同じ靴型であっても例えば、紐靴とスリッポンでは履き心地が違う場合があります。

ご使用になる際には以下の点をお守りください

●ご使用の際には、靴べらをお使いください。靴を履く時は、必ず靴紐を十分にゆるめてから靴べらを使い、足を入れてください。強引に足を入れますと、かかと部が早く傷みます。
●靴を脱ぐ際には、履く時同様、靴紐を十分にゆるめてください。靴紐を結んだまま、どこかにかかとを引っ掛けて脱いだりしますと、かかと部に傷をつけたり、破損することがあります。
●靴紐は適度に締め、しっかり結んでください。靴がすぐに脱げてしまう状態でのご使用は、思わぬ事故につながる恐れがあります。また、結んだ紐が長すぎたりしないようにしてください。余った紐が何かに絡んだり、踏んだり、踏まれたりして転倒などすることがあります。
●かかと部は絶対に踏んだりつぶしたりしないでください。革切れを起こしたり、かかと部に入っている芯が折れ、型くずれや破損するばかりでなく、思わぬ事故を招く恐れがあります。
●つまずきやすい場所や滑りやすい場所でのご使用時には(特にヒールの高いパンプスなど)、転倒する恐れがあります。

【注意】

❶色落ち

特に、革・綿・麻などの天然素材は、その性質上および現在の染色技術上、摩擦・染み・汗などによる退色や色落ちは避けられません。淡色のお召し物や雨の日のご使用については特にご注意ください。例えば、白いパンツの裾と靴が擦れ合うことによって、色移りが起こる場合がありますのでご注意ください。また、インソール、ライニングからも主に汗などの水分に起因する、ソックスなどへの色移りが起こる場合があります。

❷靴内への水漏れ

雨や雪の中で着用すると、靴の素材である革やファブリックに水が染み込み、靴の中まで水が浸透することがあります。また、縫目や底部、履き口からも水が浸入することがあります。雨や雪の日には、その状況にあった靴をお選びください。

❸高温にご注意

濡れた靴を乾かす際などは、ストーブの近くに置いたり、ドライヤーをあてたりすると変形・変色の原因となり早期劣化を招く場合があります。

❹靴にも休息(足)日を
同じ靴を毎日履き続けると、靴の中にたまった汗などの水分を吸湿したまま放出できないため、型くずれや、靴のパーツなどが傷み短命につながります。中2～3日休ませることで、靴の良いコンディションを長く保つことができます。

❺ヒールなどの片減り
ヒールやトップリフトの片減りは安全な歩行のさまたげになるばかりか、婦人靴（ハイヒールなど）の場合、足首を痛めたり、転んでケガをすることがあります。

❻ハイヒールにご注意
女性をより美しく演出してくれるパンプスやブーツなどのヒール靴。高いヒールをご使用の際はかかとが不安定なので、階段や排水溝の金網やマンホールの上を歩く時に、大切な靴を傷つけたり、足首を痛めたり転んでケガをすることがあります。

❼面ファスナー
面ファスナーは、両面を揃え、上からしっかり押さえてください。押さえ方が不十分な場合、はずれやすくなります。糸くずなどの異物が付着すると強度が弱まり危険です。異物は取り除いてください。

❽かぶれ、かゆみを感じたら
着用中に、かぶれ、かゆみなどを感じたらアレルギーなどの可能性があります。すぐに使用を中止し、専門の医師にご相談の上、適切な処置を受けてください。

⚠濡れた路面にご注意ください

凍った路面はもちろんのこと、雨や雪の日など、濡れた路面は、靴底のデザインや素材にかかわらず、滑りやすくスリップ事故を招くことがあります。これは、靴底と路面の間に雨水の薄い膜ができて滑りやすくなるからです。歩行にも十分ご注意ください。

❶突然の路面の変化にご注意!
雨天の商業施設などで、乾いた路面から急に濡れた路面に変わる時があります。気づかずに足を踏み出すと、転んでケガをすることがあります。

❷「急」のつく動作にご注意!
濡れた路面上では「急に走り出す」「急に立ち止まる」「急に方向転換する」など、「急」の付く動作は大変危険です。

❸滑りやすいところやソールの摩耗にご注意!
摩耗が進んだ靴底はより滑りやすくなりますのでご注意ください。特に、滑りやすい路面（階段・マンホール・側溝や鉄板・大理石・タイルの床など）はスリップ事故が起きやすい場所です。雪の日には、より一層の注意が必要です。

靴にも寿命があります・経年劣化

●使用頻度・使用方法・経年・お手入れによって異なりますが、靴にも寿命があります。
●靴に使われている部材や接着剤などの多くは、時間の経過と共に劣化していきます。
●経年劣化により、素材が変質し、ソールの剥れや破損などが発生することがあります。
●経年劣化は、未使用品であっても避けられません。
●長期保存の靴には劣化が進んでいる場合があります。ご使用になる際には、必ず各部材に異常がないかなど状態をご確認ください。

■人工・合成皮革についてのご注意
石油系素材と密着して長期間保存する場合などに、融着する可能性があります。また、火(高熱)のそばにおくと、軟化や変形することがあります。ある程度の期間を経過するとご使用の頻度にかかわらず経年劣化を生じ、破損(ひび割れ・剥離)する場合があります。

■天然繊維についてのご注意
コットン・リネンなどの天然素材は、色落ちしやすい性質があります。雨天の際など、淡色のソックスやパンツの裾などに擦れ合い色移りする場合があります。

■ポリエステル・ナイロンについてのご注意
摩擦に強いのが特徴です。洗う際には、つけおき洗いはしないでください。ポリエステルは洗濯液の汚れを吸い取り黒ずむ場合があります。ナイロンは色落ちや色移りの原因となりますのでご注意ください。

■ポリウレタンソールについてのご注意点
保管状況（高温・多湿）などにより、ある程度の期間を経過しますと、使用頻度にかかわらず経年劣化を生じ、破損（ひび割れ・剥離）する場合があります。雨などに濡れた際は、水分を十分に拭き取り、風通しの良いところで陰干ししてください。保管する時は、高温多湿な場所を避け、長期保管はお避けください。久々にご使用になる際は、必ずソールの状態をご確認ください。

■クレープソールについてのご注意点
揮発性物質や油分・有機溶剤に大変弱く、これらに触れると変形・変質（溶解・ベタ付き）し、元には戻りません。

■合成ゴムソールについてのご注意点
強い酸に弱い性質があります。そのため、使用頻度とは関係なく、経年劣化による亀裂やひび割れが生じます。また、素材に含まれるカーボンが床面に付着し、床面を汚す場合があります。耐油性の表示がないものは、油がひいてあるような場所でのご使用はお避けください。

■EVAソールについてのご注意
熱・経年・圧力により変形する可能性があります。

■革底(レザーソール)についてのご注意
滑りやすく、減りやすいという性質があります。つま先部分に摩耗や削れが発生しますが、革の特性上ご容赦ください。また、水に濡れると傷みが早く、水の浸入もあります。雨の日は使用をお避けください。

■付属品について
金属類は素材の特性上、経年により色に変化が起こる可能性があります。また、踏んだり、ぶつけたり、強い衝撃によりキズが付いたり破損することがあります。また、素足で履き、金属部分が直接肌に触れる靴(サンダルなど)の場合、お肌の敏感な方に金属アレルギーによるかぶれ・かゆみなどを起こすことがあります。その際は、すぐに使用を中止し、専門医師による処置を受けてください。

長くご愛用いただくためにお手入れは大切です

■天然皮革のお手入れ
❶1日履いた後は、専用ブラシでブラッシングし、汚れ・ホコリを落とします。
❷風通しの良い日陰で汗などの水分を乾かした後、シューツリーを入れ形を整えます。
❸専用のクリーナーで汚れを落とした後、適したクリームを薄く塗り、保革をしてください。
❹ブラシや乾拭きで仕上げてください。

■人工・合成皮革のお手入れ
❶簡単な汚れは、固く絞った柔らかい布で水拭きしてください。靴クリームなどの保革油を使う必要はありません。
❷汚れが落ちない場合は、専用クリーナーまたは中性洗剤で汚れを落としてください。その後、洗剤分を十分除去し、日陰で乾かしてください。

■天然・合成繊維のお手入れ
❶1日履いた後は、専用ブラシでブラッシングし、汚れ・ホコリを落とします。
❷洗剤を使用する場合は、スニーカーシャンプーなどの専用洗剤か、薄めた中性洗剤をご使用ください。なお、塩素系洗剤は、色落ち・黄ばみ・シミなどの原因となりますのでご使用を避けてください。
❸洗った後は、靴内部も含め十分に洗剤を除去し、乾いたタオルなどで水気を取った後、風通しの良い日陰で乾かしてください。高温による乾燥は避けてください。接着面が弱くなったり、黄ばみ・シミなどが生じることがあります。

【 注意 】
＊素材特有のお手入れ方法がある場合は、その内容に従ってください。間違ったお手入れをすると色落ちやシミなどが発生する恐れがあります。
＊靴クリームやクリーナーおよび撥水スプレーなどのお手入れ用品をご使用になる際は、それぞれ付属の取扱説明書に従ってください。

水は靴の大敵です!

革の特性上、また靴の製法上、靴は水に対して非常にデリケートです。革自体や縫製部分からの水の浸透は避けられません。
・濡れた状態で放置しますと、革の風合いを損なうばかりでなく、色落ち・カビ・シミができたり、革を硬化させ、ひび割れを発生させたりもします。また、革の油分が溶け出すことで劣化が促進されます。
・万一、濡れた場合は、すみやかに靴の水分を除去し、型くずれしないよう形を整え陰干しをしてください。乾いた後は、素材・仕上げ方法に適したクリームなどでお手入れしてください。

保管には注意が必要です!

■保管場所
・湿気や温度が高く、風通しの悪い場所での保管・放置は避けてください。
・車の中などは、かなり高温になる場合がありますので、このような場所は、短時間でも放置は避けてください。変色や底剥れなどを起こすことがあります。

■保管方法
・お手入れをしてから保管してください。汚れや水分が付着していると、虫・カビの発生や素材劣化の原因となります。
・長期での保管はおやめください。長期保管は、カビの発生・経年劣化・色落ち・変色の原因となります。
・やむを得ず長期保管をする際は、時折陰干しをし、お手入れをしてください。なお、長期保管後の靴をご使用になる際は、各部材の状態をご確認ください。

※その他に添付されている取扱説明書がある場合は、それに従ってください。

株式会社リーガルコーポレーション
〒279-8553 千葉県浦安市日の出 2-1-8
お客様相談窓口　0120-012-110

S 000B

シャドウ仕上げの特性とお手入れについて

当製品の甲革には「シャドウ仕上げ」を施しています。職人が手作業によりスプレーで色付けしており、そのため一足ずつ風合いや仕上げ感が異なります。「シャドウ仕上げ」をすることで、革の表面に深みを増しています。またご使用して頂くにつれて、表面の濃い部分が少しずつ薄くなります。

使用上のご注意

・汚れ落としは目の細かい布でカラ拭きをしてください。目の粗い布でのお手入れは控えてください。

・クリームをご使用する場合は、乳化性クリームあるいはデリケートクリームを少量布に取り、薄く伸ばしてください。強くこすると色落ちします。なお、目立たない部分でお試しの上、ご使用ください。※油性クリームのご使用はお控えください。

・色落ちしますので、市販のクリーナーやアルコール等を含んだシューケア用品は、使用しないでください。

・撥水スプレーを使用する場合は、塗布量を少なめにして、充分乾燥させてください（スプレーの液ダレにご注意ください）。

当製品の特性をご理解の上、ご使用くださいますようお願い申し上げます。

株式会社 リーガル コーポレーション

GORE-TEX の特性

当製品は、靴の内側に防水透湿性素材(※)である GORE-TEX ファブリクスを袋状に取り付けているため、足元からの水の浸入を防ぎます。しかし、履き口等からの水の浸入は防ぐことができませんのでご注意ください。また、着用による損傷・破損、不十分なお手入れに起因する不具合、想定用途以外の使用、オールソール・ヒール替え等のリペアにより、防水機能が低下する恐れがあります。

※ 防水透湿性素材とは、防水性と内部の蒸気を外に逃がす透湿性を兼ね備えた素材です。

甲材料には透湿性を確保しつつ水の侵入を抑えるような加工を施しておりますが、防水素材ではございません。雨の日の長時間の使用によりシミになる場合がございます。これらを防ぐため、撥水スプレーの塗布をお勧めいたします。

雨や雪の日など、濡れた路面は、靴底のデザインや素材にかかわらず、滑りやすくスリップ事故を招くことがあります。これは、靴底と路面の間に水の薄い膜ができて滑りやすくなるからです。摩耗が進んだ靴底はより滑りやすくなります。特に、階段・マンホール・側溝や鉄板・大理石・タイルの床など、滑りやすい路面はスリップ事故が起きやすい場所です。歩行時は十分ご注意ください。

当製品の特性をご理解の上、ご使用くださいますようお願い申し上げます。

株式会社 リーガル コーポレーション

GUARANTEED TO KEEP YOU DRY プロミス

新品のGORE-TEX プロダクトを購入すると、GORE-TEX ブランドによる部分的製品保証※1の対象となります。

所有されているGORE-TEX プロダクトの防水性、防風性、透湿性にご満足いただけない場合、

当該製品の修理、交換、購入金額の返金のいずれかを実施いたします。

サービス提供の際に購入証明が必要となりますので、購入時のレシートは大切に保管してください。

- 「製品として有効に使用できる状態」であるかをGORE-TEX ブランドサービスチームが検証し、その結果に基づいて保証の対象か否かを判断いたします。
- 漏水や機能低下が、事故、不適切な使用 、通常使用による摩耗、適切なお手入れの不足※2による事が原因の場合、保証の対象とはなりません。
- GORE-TEX INFINIUM プロダクト / WINDSTOPPER® プロダクト by GORE-TEX LABS の製品は部分的製品保証の対象とはなりません。

製品の不具合に関するご相談は、GORE-TEX ブランドサービスチームまで
お問い合わせフォーム※1 またはお電話にてお問い合わせください。

GORE-TEX ブランドサービスチーム
フリーダイヤル　0120-015-841

※1　部分的製品保証・お問い合わせフォームについてはこちらをご覧ください。

※2 GORE-TEX 製品の詳しいお手入れ方法はこちらをご覧ください。

©2023 日本ゴア合同会社　GORE、GORE-TEX、GORE-TEX INFINIUM、WINDSTOPPER、GORE-TEX LABS および記載のデザイン（ロゴ）は、W. L. Gore & Associatesの商標です。